2018 年4月18日

日本社会教育学会北海道・東北地区会員各位

日本社会教育学会第40回北海道・東北地区六月集会のお知らせ

　新年度を迎え、皆様ご健勝のこととお慶び申し上げます。

　さて、第42回北海道・東北地区六月集会を、2018年６月９日（土）～10日（日）、東北大学川内南キャンパスを会場に開催いたします。

　本研究集会のシンポジウムは、過去７回にわたり、地域再生にむけて社会教育が果たす役割の検討を行ってきました。このたびは、これまでの総括と位置づけ、宮城県旧鳴子町（現・大崎市）において2006年より展開されてきた「鳴子の米プロジェクト」に焦点を当て、この地域主導の地域再生計画がいかなるプロセスで生み出され、参加の広がりと実働に至ったのかを検証しつつ、そこから社会教育の果たすべき役割と課題を検討したいと思います。

　農家のみならず旅館業者など地域で異業種が集い、結城登美雄氏（民俗研究家）の提案をベースに開始された「鳴子の米プロジェクト」は、近年の米の価格が１俵約１万円強のところに、１俵2万4,000円以上の価格を設定し、その価格と品質に納得した「食べ手」のみに注文販売する、という計画です。国や市場が米価を決めるこれまでを超え、生産者こそが生産を続けられる価格を提案し、それを理解してくれる方々に心を込めて丁寧に米を作るという試みへの共感が広がり、現在では24人の作り手によって約900人の注文者のための米が作られています。

　この循環の駆動の契機は、耐冷品種「ゆきむすび」の開発でした。地域が試験場に掛け合い、試験栽培や食味テストを重ね、県に直談判して品種の登録にまでこぎ着けるということは、過去に前例のないことでした。加えて注目すべきは、そうした新種の米の開発に至るプロセスでは、地域のお母さん方（炊飯実験、料理法の発掘・開発）や工人（器作り）などによって、この米の持ち味を最大に引き出すための学習・調査・研究が地域総ぐるみで膨大に重ねられてきたことです。

　この度は、このプロジェクトに学びながら、これからの地域を創り出す学習の計画化をめぐる理論枠について検討したいと思います。

　また、二日目は、従来通り、自由研究発表の枠をご用意いたしております。

　以下、開催要項と、参加申込、自由研究発表申込の方法についてお示しいたします。皆様のご参加を、心よりお待ちしております。

１．開催要項

　日　時：６月 ９日（土）13時30分～17時

　　　　　６月10日（日） 9時30分～16時（予定）

　　　6月９日（土）　シンポジウム

　　　テーマ：地域再生と社会教育（その８）

　　　　　　　「鳴子の米プロジェクト」にみる地域再生の計画化

　  　報告者　安部祐輝（大崎市役所）

　　　　　　　西大立目祥子（フリーライター）

　　　６月10日（日）　自由研究報告

　会　場：東北大学教育学部（川内南キャンパス）

　　　　　仙台市地下鉄東西線　川内駅より徒歩７分

　会　費：参加費　一般1,500円、学生500円

　　　　　懇親会費　一般3,500円、学生2,000円

２．自由研究発表の申し込みについて

　①お名前、②ご所属、③発表テーマを記載の上、電子メールにて以下までご連絡ください。いただいたメールへの返信をもって受理とさせていただきます。

　なお、同一所属から複数の報告希望者がおられる場合は、代表者の方が集約してご連絡いただけるとありがたいです。

　締切り：2018年５月12日（木）（必着）

　申込先：石井山竜平（東北大学）宛　[ishiiyama@hotmail.com](mailto:ishiiyama@hotmail.com)

　なお、自由研究発表の報告時間も含めたプログラムは、５月17日（火）郵送にて発送の予定です。

３．懇親会参加の申し込みのお願い

　参加者数の把握の都合上、①お名前、②ご所属を記載の上、５月31日（木）までに、電子メールにて、以下までご連絡ください。

　申込先：石井山竜平（東北大学）宛　[ishiiyama@hotmail.com](mailto:ishiiyama@hotmail.com)

日本社会教育学会第42回北海道・東北地区六月集会実行委員会

東北大学　高橋　満

mitsuru.takahashi.c4@tohoku.ac.jp